

アイシャドウ

G0211

パキスタン

世界のムスリムのくらしー同時代を生きる



石のアイシャドウ

目の周囲、特にまぶたに暗い色をつける化粧のための道具。例えば、ニカーブを着けている女性などは目の辺りしか素肌をさらさずに生活しているので、唯一の人目につく部位である、目元のたしなみを特に大切にしている。また、小さい子の目の周りに塗った場合には、美しく飾る化粧ではなく、魔除け・病気除けの意味合いがある。アイシャドウで目を大きく見せることで、いわゆる「めぢから」が強くなり、悪者や魔物の視線をはね返す効果や、病気を運ぶ虫などが目元につくのを防ぐ効果がある。

【吉岡先生さんからのひとこと】

今時の街で販売されているアイシャドウは、加工品の粉末やペーストなどを筆などで塗りつけるのが主流ですが、山村で見たのは昔ながらのやりかたで、黒い石の粉末を石の棒でこすり付けていました。その時、アーモンドやアズの種の油を混ぜて、色を鮮やかにしたりもします。